

東京電力福島第1原発事故で被災した福島県南相馬市の小中学生マーチングバンドのドキュメンタリー映画「MARCH」(中村和彦監督)の上映会が8日、宇和島市三間町迫目のコスモスホール三間であった。親子連れなど約40人が、福島の現状や愛媛との縁に思いを寄せた。

原発事故被災の子描く映画「MARCH」

現状や縁に思い寄せ



宇和島で上映会

上映は、制作委員長こと角田寛和さん(55)でサッカー日本代表の千葉県柏市リガ、宇和島市に炊き出しやボランティアに訪れたの

がきっかけ。同市の被災者支援団体「うわじまグランマ」が「活動できているのは多くの人の支援のおかげ。つながりの大切さを伝えたい」(松島陽子代表)と主催した。

映画製作の背景について角田さんが講演。「青空の下で演奏演技させてやりたいと全国のサッカーチームに声掛け、最初に手を挙げてくれたのが愛媛F.C.。しかもその翌年も、子どもたちはそれを忘れておらず、今回の豪雨災害を知つて真っ先に募金活動をしてくれた」と福島と愛媛の絆について触れた。

「津波で水で車が流され家が壊された。今愛媛もこれから大変だと思う。南相馬の子どもたちの姿に共感してもらえれば」と語る角田さん

映画では、音楽をやると強調。風評被害をなくすため「映画を見て関心を持つことも支援」と訴えた。

映画では、音楽をやる夢を諦めず前に進む子どもたちの姿が映し出され、市内の40代主婦は「親たちが子どもたちの夢を応援している姿に感動した。子どもを含めたくさんの人を見てもらいたい映画」と話していた。

会場は、支援物資を自由に持ち帰れるコーナーや吉田・三間地域の物産販売、子ども向けの遊び場も設けられた。(梅木美和)

福島↓↑愛媛つながる糸

され家が壊された。今愛媛なら人ひとではないと思ってもらえるのでは」と角田さん。

バリケードや除染土の袋がある福島の現状を紹介しながら、一方で放射線量が低い場所もあると強調。風評被害をなくすため「映画を見て関心を持つことも支援」と訴えた。

映画では、音楽をやる夢を諦めず前に進む子どもたちの姿が映し出され、市内の40代主婦は「親たちが子どもたちの夢を応援している姿に感動した。子どもを含めたくさんの人を見てもらいたい映画」と話していた。